

# 「疑似会話型面接調査」の試み

小 林 隆

## 1 本報告の目的

今回の気仙沼市方言調査において試みた「疑似会話型面接調査」の方法について報告する。「疑似会話型面接調査」とは何かを説明し、具体的に使用した調査票について解説する。結果を十分分析するに至っていないので、調査方法の紹介と簡単な考察が主となる。

『生活を伝える被災地方言会話集 1~4』は、場面設定会話のかたちをとった方言談話資料である。各場面、1 回分の会話しか公開していないので、その会話に現れた特徴が気仙沼市方言として安定的なものか確認する必要がある。この課題に応える方法としては、同じ場面の会話のサンプルを増やすことが妥当であり、第 4 集の会話収録の際には、そうした観点から、同一場面の会話を多少方式を変えながら再収録するという試みを行っている。

しかし、今回の気仙沼市方言調査は、調査全体が面接質問式調査でなされることが決まっているので、一般的なかたちでの会話の収録・検討はできない。それでも、面接質問式調査の範囲内で会話について見ていくような工夫はできるかもしれない。従来、面接調査と会話収録とは目的がまったく別であるとみなされてきたが、ここでは、面接調査によって会話の特徴をとらえる試みを行ってみたい。

## 2 疑似会話型面接調査とは

「疑似会話型面接調査」とは、会話の展開を想定し、その進行に沿って、各発話（ターン）をどう行うかを質問によって明らかにする方式である。1 人のインフォーマントに、2 人の話者を演じ分けてもらい、あたかも会話をしているかのように調査を進める。面接による質問式の調査でありながらも、場面設定会話を収録するような趣をもった調査方式とも言える。

談話資料の形態を、椎名渉子・小林隆（2007）では次のように分類した。

- a. 自由会話
  - a-1. 話題自由型：話題は自由とし、その場の話者の選択に任せる方式
  - a-2. 話題指定型：話題を指定し、話者にはその話題について語り合ってもらう方式
- b. 場面設定会話
  - b-1. 展開自由型：シナリオは指定せず、話の展開を話者の自由に任せる方式
  - b-2. 展開指定型：シナリオを指定し、話の展開に制限を加える方式

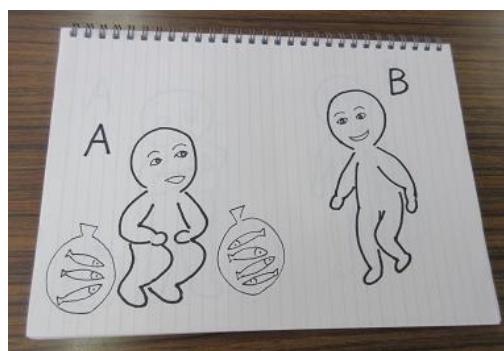
このうち、自由会話の特徴を疑似会話型面接調査でとらえることは難しい。この方法は、1 人の

インフォーマントが二役を演じるという点でいわば「独り芝居」であり、そのやり方で自由会話を演じることは困難と言わざるを得ない。一方、場面設定会話はその展開が予測可能である分、質問によってある程度発話の内容をとらえることができる。このとき、質問者が話者の交替のみを指示するだけで発話の内容に立ち入らないならば「展開自由型」の疑似会話型面接調査となる。一方、「まず、依頼してください」「次に、承諾してください」「次は、感謝してください」などのように発話の内容まで指示するならば、それは「展開指定型」の疑似会話型面接調査と言える。

今回採用した方法は、「展開自由型」の疑似会話型面接調査である。「依頼」「申し出」といった場面は設定したものの、その展開はインフォーマントに任せることとし、特に発話の内容を指定することはしなかった。椎名渉子・小林隆（2017）で指摘したように、展開指定型は複数地点の比較の点でデータに統一性を確保できるが、一方で、談話展開の地域による違いを見逃してしまう恐れがある。

以上、大まかに「疑似会話型面接調査」について説明した。今回の調査に即して、もう少し具体的な点を補足しよう。まず、今回の調査では、質問者が、各発話について、その都度、回答された形式の形態や意味・待遇度、あるいは予想される表現などについての確認を行った。その点は、一般的な面接質問式調査と同様であるが、これだと、話の流れを断ち切ることになり、会話の展開を見るには適当ではなかったかもしれない。インフォーマントに、まず最後まで通して会話を演じてもらい、そのあと、各発話に戻って確認を行う方法もありえたと思われる。

また、今回の調査では、補助道具として該当する場面の絵を用意し、それをインフォーマントに見せながら調査を行った。登場人物の2人を配置したもので、話者交替を行うたびに、どちらの人物の発話の番であるか、調査員が指さしながら指示を行った。これは、インフォーマントがその場面を理解するための一つの措置であるが、こうした工夫はまだほかにも考えることができるかもしれない。



補助道具としての場面の絵

### 3 調査内容

『生活を伝える被災地方言会話集』の中で、今回の調査で扱った場面は次のとおりである（「1-1」は第1集の1番目の会話であることを示す）。依頼・申し出とその受けの場面を対象とした。

- 要求表明系－要求反応系〈頼む－受け入れる〉
  - 1-1. 「荷物運びを頼む」
  - 1-2. 「お金を借りる」
  - 1-3. 「役員を依頼する」
  - 2-1. 「醤油差しを取ってもらう」
- 恩恵表明系－恩恵反応系〈申し出る－受け入れる／断る〉

- 1-14. 「荷物を持ってやる」
- 1-15. 「野菜をおすそ分けする」
- 1-16. 「ゴミ当番を交替してやる」

具体的な調査内容を次に示す。調査票から質問部分を抜粋したものである。インフォーマントに対して、まずどのような場面かを提示し、次いで、会話の展開に沿って、例えば 1.1、1.2、1.3、1.4 の順に質問していく。( ) 内に依頼、承諾、感謝、配慮と入れてあるのは、共通語の会話の場合、その位置で期待される発話内容であり、話者に対する指示ではない。

---

○AさんとBさんは、近所の知り合い同士です。このAさんとBさんになったつもりで、会話をしてみてください。

**(1) 荷物運びを頼む**〈頼むー受け入れる〉 会話集 1-1.「荷物運びを頼む」

【場面提示】Aさんは、親戚からサンマをもらって帰ってきました。ところが、たくさんもらいすぎて重かったため、家までもう少しのところまで来て疲れてしまい休んでいました。ちょうどそこにBさんが通りかかったので、家まで一緒に運んでもらおうと思います。

- 1.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(依頼)
- 1.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾)
- 1.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(感謝)
- 1.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)

**(2) お金を借りる**〈頼むー受け入れる〉 会話集 1-2.「お金を借りる」

【場面提示】AさんはBさんと一緒に、共通の知人のお見舞いに行きます。病院に行く前に、見舞いの品を買いにお店にやってきました。品物を選んでお金を払おうと思ったところ、手持ちのお金が足りないことに気付きました。そこで、一緒にいたBさんからお金を借りようと思います。

- 2.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(依頼)
- 2.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾)
- 2.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(感謝)
- 2.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)

**(3) 役員を依頼する**〈頼むー受け入れる〉 会話集 1-3.「役員を依頼する」

【場面提示】 Aさんは地域の地区会長をしています。他の役員をしていた人が体調を崩して辞めることになりました。後任を探していますが、なかなか引き受けてくれる人がいません。そこでAさんはBさんに役員になってもらおうと、Bさんの家を訪ねます。

- 3.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(依頼)
- 3.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾)
- 3.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(感謝)
- 3.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)

**(4) 荷物を持ってやる** 〈申し出る－受け入れる〉 会話集 1-14. 「荷物を持ってやる」

【場面提示】 Aさんは、道端に荷物を置いて休んでいるBさんに出会いました。聞けば、Bさんは郵便局に荷物を運ぶ途中だそうです。Aさんは、Bさんの代わりに荷物を持ってやろうと思います。

- 4.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(申し出)
- 4.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾・感謝)
- 4.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)
- 4.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。

**(5) カツオをおすそ分けする** 〈申し出る－受け入れる〉 会話集 1-15. 「野菜をおすそ分けする」

【場面提示】 Aさんは、親戚からカツオを1本もらいました。とても食べ切れないので、Bさんに分けてやりに行きました。

- 5.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(申し出)
- 5.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾・感謝)
- 5.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)
- 5.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。

**(6) ゴミ当番を交替してやる** 〈申し出る－受け入れる〉 会話集 1-16. 「ゴミ当番を交替してやる」

【場面提示】 東京にいるBさんの娘夫婦に赤ちゃんが生まれました。Bさんは、あさってあたり、孫の顔を見に東京に行ってきたいと思っていますが、今週は町内のゴミ当番にあたっていて、どうしたものかと迷っています。Aさんは、それなら自分がゴミ当番を代わるから、東京へ行

ってくるようにBさんに勧めます。

6.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(申し出)

6.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾・感謝)

6.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)

6.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。

○今度は夫婦の会話です。

**(7) 醤油差しを取ってもらう**〈頼むー受け入れる〉 会話集 2-1.「醤油差しを取ってもらう」

**【場面提示】**家族でテーブルを囲み、食事をしています。あなたは醤油差しを取ろうと思いますが、少し離れた位置にあり、手が届きません。そこで、醤油差しの近くにいる妻(ないし夫)に取るように言います。

7.1. このとき、あなたが夫なら、妻にどんなふうに言いますか。(依頼)

7.2. それでは、あなたが妻なら、夫にそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(承諾)

7.3. それでは、あなたが夫なら、妻に醤油差しを取ってもらって、何か言葉を返しますか。(感謝)

7.4. それでは、あなたが妻なら、夫にそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)

#### 4 調査結果

調査は2名のインフォーマントに対して行った。いずれも気仙沼市生え抜き話者である。

インフォーマント1：1953年生まれ(調査時64歳)、男性

インフォーマント2：1941年生まれ(調査時76歳)、男性

「1. 荷物運びを頼む」の場面について結果を見てみよう。その前に、場面提示の内容と質問を再掲する。

---

**【場面提示】**Aさんは、親戚からサンマをもらって帰ってきました。ところが、たくさんもらいすぎて重かったため、家までもう少しのところまで来て疲れてしまい休んでいました。ちょうどそこにBさんが通りかかったので、家まで一緒に運んでもらおうと思います。

1.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(依頼)

1.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。(承諾)

1.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しま

すか。(感謝)

- 1.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。(配慮)
- 

これらの質問に対するインフォーマントの回答は次のとおりである。①②③は回答に複数のバラエティがあったことを示す。インフォーマント2は1.2以下の質問に対して、2通りの展開を回答したので、そのように表示してある。( )内は、その部分は発話されなかったものの、回答の流れから見て、補って考えることができることを表す。なお、「スケル」は「助ける」が語源であるが、気仙沼市では「～テスケル」のように補助動詞化した用法が認められる。



調査の様子

#### ▼インフォーマント1

- 1.1. ①コノサンマー モラッテキタンダケントモ、アノー ハコンデスケネスカ。  
②イマ サカナ モラッテキタンダケントモ、チョット オモタクテー イエマデ ヒトリデ ハコベネンデ、ハコンデスケネスカ。
- 1.2. ①ンー ワカッタ。イーヨー。  
② (ンー ワカッタ。) イーテバ。  
③ (ンー ワカッタ。) スケツカラ。
- 1.3. ①ンデ コイズ モッテケロ。  
②ンデ コイズ。  
③タノム。
- 1.4. ①何も言わない。  
②ン。

#### ▼インフォーマント2

- 1.1. ①コレー イッパイ サカナッコ モラッテ ココマデ キタンダケントモ、ツカレテシマッタカラ、スコス モッテスケロヤ。  
② (コレー イッパイ サカナッコ モラッテ ココマデ キタンダケントモ、ツカレテシマッタカラ)、チョット ウチマデ モッテスケロヤ。

#### 【展開1】

- 1.2. ①ホンデ ソンナニ イッペ モラッタンダラバ、オレサモ スコス ワケテクレ。

② (ホンデ ソンナニ イッペ モラッタ<sup>ン</sup>ダラバ、オレサモ スコス)  
オスソワケステケロ。

③ (ホンデ ソンナニ イッペ モラッタ<sup>ン</sup>ダラバ、オレサモ スコス)  
オスソワケスロヤ。

1.3. ①ホンデヤ オメニ ニンズーブ<sup>ン</sup> アケ° ルガラ。

② (ホンデヤ オメニ ニンズーブ<sup>ン</sup>) ケツカラ。

③ (ホンデヤ オメニ) スゴヒキ (ケツカラ)。

1.4. ①アー アリカ° ト。

## 【展開2】

1.2. ①ンデ オレ モツテスケツカ。

② (ンデ オレ) モツテスケツカラ。

1.3. ①ンデ タノムカラ。モツテスケロヤ。

1.4. ①何も言わない。

## 5 結果から見えてくること

以上の結果と比較するために、会話集に収録された同じ場面の会話を掲載する。なお、この会話ではAが女性話者、Bが男性話者である。AとBとの関係は、ここでも近所の知り合い同士である。

---

### 1-1. 荷物運びを頼む

001A : Bサーン アダシ コレ サンマ モラッテ、イッパイ モラ<sup>イ</sup>スギダヤー。  
Bさん 私 これ さんま もら<sup>っ</sup>て、い<sup>っ</sup>ぱい もら<sup>い</sup>すぎたよ。

002B : ナーント ドツサリデー。  
なんと ど<sup>っ</sup>さり<sup>で</sup>。

003A : ンダカラー。 アノ モジキレネモンダガラ モツテスケテモラッテ  
そうなんだよ。あの 持ちきれないも<sup>ん</sup>だから 持<sup>っ</sup>て[助<sup>け</sup>て]も<sup>ら</sup>っ<sup>て</sup>  
イーベガネー。  
いい<sup>だ</sup>ら<sup>う</sup>か<sup>ね</sup>。

004B : アンダノゴツダカラ ヨグタゲダンダベヨ。  
あなたのことだから 欲張<sup>っ</sup>た<sup>ん</sup>だ<sup>ら</sup>う<sup>よ</sup>。

005A : ンダカラー。 ナーニ イッパイ モツテゲモツテゲッテ ユーガラネ  
そうなんだよ。なに い<sup>っ</sup>ぱい 持<sup>っ</sup>て<sup>行</sup>け<sup>持</sup>って<sup>行</sup>け<sup>っ</sup>て 言<sup>う</sup>から<sup>ね</sup>  
(B ウン) ダレガサ アゲテモイーガド モツテ モラ<sup>ッ</sup>タ<sup>ノ</sup>ッ<sup>サ</sup>。  
(B うん) だれかに あげてもいいかと 思<sup>っ</sup>て も<sup>ら</sup>っ<sup>た</sup>の<sup>さ</sup>。

006B : アーアー。イー イーガスヨ モツテスゲツガ<sup>ラ</sup>。  
あーあー。×× いい<sup>で</sup>す<sup>よ</sup> 持<sup>っ</sup>て<sup>や</sup>る<sup>か</sup>ら<sup>。</sup>

007A : ハー。ホンデ タスカルガラ (B ウン) Bサンモ ハンブン  
はい。それで[は] 助かるから (B うん) Bさんも 半分

モッテッテケライン。  
持って行ってください。

008B : ナーヌ イーガスー。コゴデ ワゲルスカ。  
なに いいです。 ここで 分けますか。

009A : ンダネー (B ウン) モジキレネガラ (B ウンウンウンウン)  
そうだね (B うん) 持ちきれないから (B うんうんうんうん)

タベキレナイシー。  
食べきれないし。

010B : ホンデア コゴデ ワゲツガ。  
それじゃあ ここで 分けるか。

011A : ンダネー。  
そうだね。

012B : ウン ソースレバ (A アー ヤ) アンダモ ラクダイツチャナ。  
うん そうすれば (A あー ×) あなたも 楽だろうな。

013A : ンダネー (B アー ヤ) モーシワゲネーケッド ンデ。  
そうだね (B あー ×) 申し訳ないけれど それで。

014B : オライドゴ チョード サンマ キレダガラッサ。  
うち ちょうど さんま なくなったからさ。

(A アー ホンデ イガッダヤ。) ウン ウンウン。  
(A あー それで[は] よかったよ。) うん うんうん。

015A : ハイ。  
はい。

016B : ホンデネー。  
それで[は]ね。

017A : ハイハイ。  
はいはい。

018B : アリガトーネー。  
ありがとうね。

019A : ハーイ カエッテ アリガトゴザリシター。  
はい かえって ありがとうございました。

---



この会話と、先に示した疑似会話型面接調査の結果を比較すると、まず会話量（情報量）に大きな違いがあることがわかる。実際の会話は開始から終了まで 19 個の発話（ターン）から構成されているが、疑似会話型面接調査の方は 3~4 発話で終わっている。前者にはさまざまな情報の交換が盛り込まれているのに対して、後者は会話の骨組みとして必要最小限の内容から成り立っていると言ってよい。

そのほか、注目すべき点をいくつか挙げてみよう。

まず、実際の会話では、冒頭、依頼する側の話者が、自分の置かれている困難な状況を感嘆的に言い放ち、それに受け手の側の話者がやはり感嘆的に応じるというやりとりが観察される。

001A : Bサーン アダシ コレ サンマ モラッテ、イッパイ モライスギダヤー。  
Bさん 私 これ さんま もらって、いっぱい もらいすぎたよ。

002B : ナーント ドッサリデー。  
なんと どっさりで。

こうした依頼側の状況説明の部分は、疑似会話型面接調査では、2 人の回答とも「コノサンマーモラッテキタンダケントモ」「コレー イッパイ サカナッコ モラッテ ココマデ キタンダケントモ」のように依頼文の前件として従属節の中に押し込められてしまっている。感情的・動的な表現と論理的・静的な表現との違いがここに見られる。筆者のこれまでの観察では、感情的・動的な表現の多用がこの地域の会話の特徴のひとつではないかと思われる。その点では、今回の疑似会話型面接調査は、そうした特徴をつかみきることができなかつたと言えるかもしれない。これは、会話の現場の臨場感をいかに作り出すかという問題と関わっていよう。

次に、受け手の側の承諾意志の表明に対して、依頼の側がどのように応じているかに注目してみる。実際の会話では、次のようになっている。

006B : アーアー。イー イーガスヨ モッテスゲツガ<sup>ラ</sup>。  
あーあー。×× いいですよ 持ってやるから<sup>ら</sup>。

007A : ハー。ホンデ タスカルガラ (B ウン) Bサンモ ハンブン  
はい。それで[は] 助かるから (B うん) Bさんも 半分

モッテッテケライン。  
持って行ってください。

ここには、いわゆる感謝の表現が見当たらない。「タスカルガラ」とは言っているものの、共通語の感覚ではここで発話されることが期待される「ありがとう」に当たる言い回しが現れてこないのである。この点は、疑似会話型面接調査の結果でも同様である。「ンデ コイズ モッテケロ。」「ンデ タノムカラ。モッテスケロヤ。」のように回答がなされ、特に感謝の言葉は口にされていない。いわゆる感謝の気持ちが言語形式として共通語ほど十分に表現されないことは東北地方全般に共通する特徴と思われるが、そうした部分は疑似会話型面接調査においても把握できたと言えよう。言語形式の細部の違いではなく、言語運用の発想法に関わるような部分は、この方式でもある程度とらえることができそうである。

最後に、会話の内容に関わることとして、実際の会話では次のようにサンマをその場で分配するというやりとりが行われている。

007A : ハ。ホンデ タスカルガラ (B ウン) Bサンモ ハンブン  
はい。それで[は] 助かるから (B うん) Bさんも 半分  
モッテッテケライン。  
持って行ってください。

008B : ナーヌ イーガスー。コゴデ ワゲルスカ。  
なに いいです。ここで 分けますか。

これは、疑似会話型面接調査でも似たような展開がとらえられている。すなわち、インフォーマント 2 の回答で、「1.2. ①ホンデ ソンナニ イッペ モラッタダラバ、オレサモ スコス ワケテクレ。」「1.3. ①ホンデヤ オメニ ニンズーブン アケ° ルガラ。」のようになっているのがそれである。もちろん、この場合には、受け手の側が催促しており、実際の会話で依頼者側が申し出ているのとは異なる。しかし、このような会話の現場でのサンマの分配という事態が共通して出現しているのは偶然ではなかろう。地域社会の生活の中で習慣化された行為が、場面設定会話だけでなく、疑似会話型面接調査でもとらえられたと考えることができる。

## 6 おわりに

ここでは、今回の気仙沼市方言調査において試みた「疑似会話型面接調査」の方法について報告した。「疑似会話型面接調査」とは何かを説明し、具体的な調査内容についても解説した。また、結果についても簡単にコメントしたが、最初にも断ったように十分な分析には至っていない。この方法が会話の特徴を把握するうえでどの程度有効なものであるかは、今後、さらに深めて考えてみたいと思う。

## 文 献

椎名渉子・小林隆 (2017) 「談話の方言学」小林隆・川崎めぐみ・澤村美幸・椎名渉子・中西太郎  
『方言学の未来をひらくーオノマトペ・感動詞・談話・言語行動ー』ひつじ書房